

01 いまだ復興中の熊本地震の災害支援に、 キャンピングカーを「災害対策・救援車」として寄贈

キャンピングカーは、レジャーだけでなく災害時にも有効な機能を持っているクルマとして知られていますが、その特性を生かして、東日本大震災や九州熊本地震の災害支援車としても活躍しています。

日本RV協会では、一昨年に引き続き、いまだ復興中の熊本地震の災害復興に役立ててもらいたいと、キャンピングカーを寄贈しました。

これは、いまだに続く地震やその二次災害を予防し、有事の場合に救援・支援する車両が足りないという地元熊本市や被災者の声を聞き、日本RV協会九州地域部会が“災害対策・救援車”として熊本市へキャンピングカーを寄贈したものです。

県内屈指の大型イベントである「九州キャンピングカーショー」を開催してきた

産業展示場「グランメッセ熊本」は、先の熊本地震で傷つき、その影響で一昨年は同イベントも中止を余儀なくされましたが、昨年7月に震災復旧工事を終えリニューアルオープンし、9月30日(土)より10月2日(月)までの3日間「九州キャンピングカーショー2017」が開催されました。

その期間中である9月30日(土)にグランメッセ熊本の特設ステージにおいて贈呈式が行われ、日本RV協会の降旗貴史会長から熊本市政策局危機管理監の井上学様へキャンピングカーの車両キーが手渡されました。

日本RV協会では、このように各地で、不幸にして起こってしまった災害の復興支援にも積極的に取り組んでおり、各地の皆さまに喜んでいただいております。



02 マナーを守って快適なくるま旅を！ 日本RV協会では公共駐車場で「マナー10カ条」を設定しています

キャンピングカーはそのスタイリングからどこにいても目立つクルマといえます。だからこそマナーは人一倍守らなければなりません。キャンピングカーユーザーの増加に伴って、一部の心ないユーザーのマ

ナー違反がニュースにもなり、道の駅や公共の駐車スペースから締め出されるという事態も発生しています。日本RV協会では公共駐車場で「マナー10カ条」を設定して、キャンピングカーユーザーにマナー厳守を

お願いしています。
キャンピングカーを上手に楽しくくるま旅をするためには、まずはマナーを守ることが基本です。マナーを守ってみんなで楽しいくるま旅を！

1. 長期滞在を行わない



道の駅や高速道路のSA・PAなどは宿泊施設ではないので、そこにおける休息は、必要最小限の仮眠にとどめ、連泊・長期滞在を行わないようにしましょう。また、キャンピングトレーラーを公共の駐車場に放置して、むやみにヘッドのみで遠出をするようなことは避けましょう。

2. ゴミの不当投棄はしない



旅行中や移動中に発生した生活ゴミは、ゴミ箱があっても投棄することはやめましょう。また食器などは使い捨てのモノは避け、基本的にゴミは持ち帰ることを心がけましょう。

3. 発電機の使用には注意を払う



公共駐車場における発電機の使用は、時と場合を十分に考慮し、他の利用客が休息している時や近所に民家があるような場所では、使用しないようにしましょう。

4. キャンプ行為は行わない



道の駅やSA・PAなどでは、たとえ短時間の休息であっても、オーニングを広げたり、椅子・テーブル・コンロなどを車外に持ち出して、キャンプ場のように利用することはやめましょう。また、周囲に配慮し特に早朝・夜間の大きな話し声や生活音に注意しましょう。

5. グレータンクの排水は行わない



生活排水用のグレータンクの処理も、その場で垂れ流したり、側溝に流したりしないように心がけましょう。また、施設に許可なく給水することはやめましょう。

6. オフ会の待ち合わせは慎重に



オフ会やクラブミーティングで公共駐車場に集合する場合は、他の利用客から駐車場を占拠して騒いでいると誤解されないように振る舞いましょう。

7. 許可なく公共の電源を使用しない



許可なく公共の電源にキャンピングカーを接続し、その電源を利用することはやめましょう。

8. トイレ処理は控える



公共駐車場では、カセットトイレやポータブルトイレの処理は控えましょう。

9. 車椅子マークの所に駐車しない



道の駅や高速道路のSA・PAにある車椅子マークの駐車スペースには、健常者のみが乗車している場合は駐車しないようにしましょう。

10. 無駄なアイドリングをしない



無駄なアイドリングによる排気ガスの流出や騒音は、大気汚染や地球温暖化にも悪影響をもたらすので、エンジンをストップを心がけ、ECOドライブを行いましょう。